

中央区男女共同参画ニュース

Bouquet

ブーケ

特集

男女共同参画社会と若者の意識

No.49
2006.2

CONTENTS

特集	男女共同参画社会と若者の意識	2P
	若い世代にとって男女共同参画社会とは?仕事・結婚・子育てをどう考えている?	
	中央区の新成人に聞きました	4P
	「面白いかどうか」が基準の現在の若者たち	5P
	関東学院大学経済学部教授・中央区男女共同参画推進委員会委員 細谷 実	
	輝く女性にインタビュー in 中央区 松枝美津子さん	6P
Topics	「ブーケ21」区民スタッフ養成講座	7P
	中央区ニュース	8P



中央区「新成人のつどい」で、未来へ羽ばたく若者たち(平成18年1月9日:ロイヤルパークホテル)

男女共同参画社会と若者の意識

男女共同参画のイメージは？

家庭や学校・職場では

男女平等？

昨年末、国においては男女共同参画基本計画(第2次)が策定され、「男女共同参画の視点にたった社会制度・慣行の見直し」など、12の分野ごとに施策の目標、2020年までの基本的方向が盛り込まれました。

今やあらゆる分野で男女共同参画は当たり前の時代になっています。子どもの「ろから」のような考え方にふれてきた若い世代は、男女共同参画社会をどのようにとらえているのでしょうか。若者の男女共同参画意識について考えてみましょう。

若い世代ほど不平等感はない

男女の地位に関する意識について、

2004年11月に実施された内閣府の世論調査(「男女共同参画社会に関する世論調査」)の結果を見ると、家庭生活、職場、学校教育の場、政治の場、法律や制度、社会通念・慣習、しきたり、それぞれの分野で、男性の方が優遇されている」と感じている人の割合は、男性より女性、年齢別では20歳代、30歳代よりも40歳代、50歳代が高くなっています。

家庭生活では全体の39.9%、学校教育では66.8%、法律や制度の面では39.3%が「平等」と感じています。

職場や政治の場では、男性が優遇されている」と感じる人が圧倒的に多く、社会全体についても図表1にあるように4人のうち3人近くが「男性優遇」と感じていて、その割合は9年前の調査からほとんど変わっていません。

「妻は家庭を」に賛成の20代女性は3人に1人

「夫は外で働き、妻は家を守るべきである」という考え方については、「賛成」とどちらかといえば賛成」の合計が全体の約45.2%(図2)。92年調査の60.1%から、調査のたびに少しずつ減っています。

賛成する人は、全体を見ても、20歳代だけを見ても、女性よりも男性の方

が多くなっていますが、女性を年齢別に見ると、30歳代の数値が最も高くなっています。子育て中の女性が多いためでしょうか。

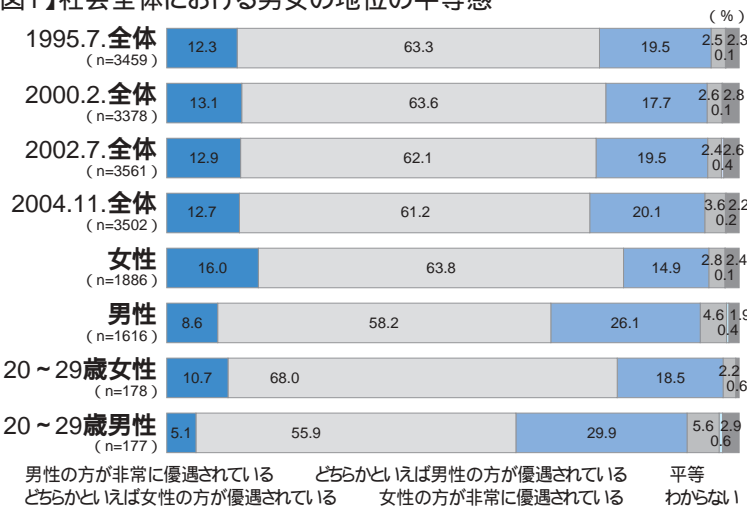
20代の「就業継続支持」は女性44.9%、男性34.5%

「女性が職業をもつことについての考え」という質問項目では、「子どもができるまではもつ方がよい」と答えた人が全体の10.2%、「子どもができても続ける方がよい」が40.4%、「子どもができた方がよい」は34.9%となっています。

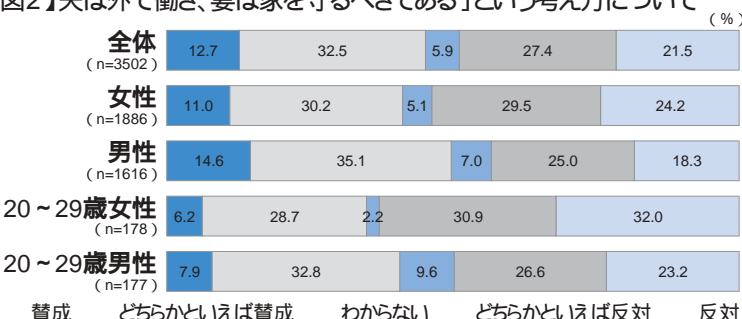
「子どもができても続ける方がよい」と答えた人の割合は、女性は50歳代、40歳代に次いで20歳代が高く、30歳代はやや低くなっています。男性は30歳代、40歳代が高く、20歳代は50歳代、60歳代よりも低くなっています。20歳代、50歳代では「継続支持」の男女差が目立ち、20歳代女性の44.9%が「継続」を、32.6%が「中断・再開」を支持しているのに対し、20歳代男性は34.5%が「継続」を、36.7%が「中断・再開」を支持しています。

全体の推移を2年前、4年前の調査と比べると、「子どもができるまで」にはほとんど変化がなく、「継続」が

【図1】社会全体における男女の地位の平等感



【図2】夫は外で働き、妻は家を守るべきである」という考え方について

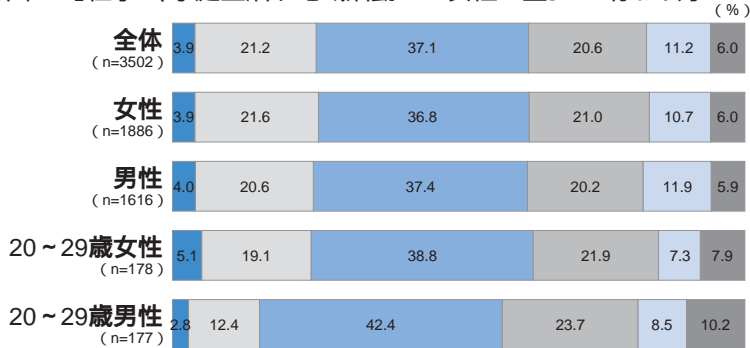


増え、「中断再開」が減る傾向が見られます。年齢別の差は、世代の差というよりも、実際に子育てに直面している年代と、これからの年代、終えた年代の差のように思われます。

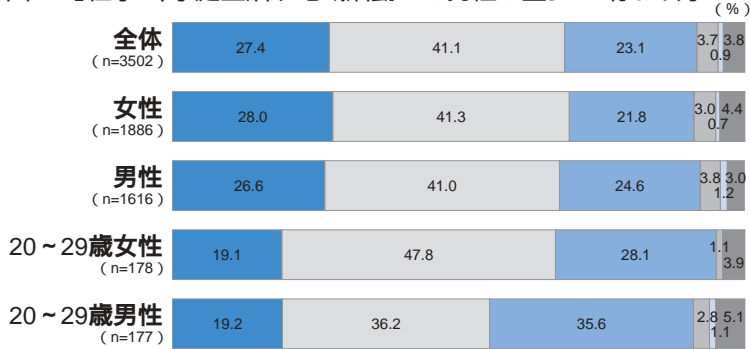
20代の女性の6割が「必ずしも子どもをもつ必要はない」

「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」という考え方に賛成する人は男性より女性に多く、年齢別では20歳代が最も高い割合を示しています。20歳代女性の90.3%が「結婚しなくてもよい」に「賛成」あるいは「どちらか」といえば賛成」で、68.6%が「子どもをもたなくてもよい」に「賛成」あるいは「どちらか」といえば賛成」しています。とはいえ子どもがほしくないわけではなく、「社会意識に関する世論調査」(内閣府2005年2月)では20歳代女性の83.6%が「理想の子どもの数は2人以上」と答え、「実際にもてそうなもてた(子ども)の数」についても「2人」が39.9%、「3人」が14.2%います。20歳代男性も76.1%が「理想は2人以上」と答えていて、2003年に厚生労働省が中高生を対象に行った調査でも、「仕事・結婚・子育てに対し、肯定的な意見をもって

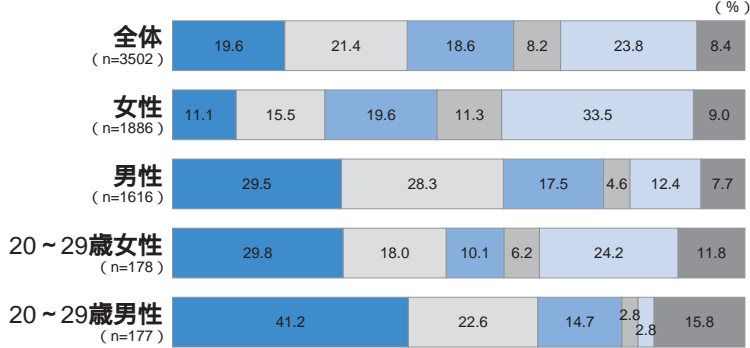
【図3-1】仕事と、家庭生活や地域活動への女性の望ましい係わり方 (%)



【図3-2】仕事と、家庭生活や地域活動への男性の望ましい係わり方 (%)



【図3-3】仕事と、家庭生活や地域活動への現在の係わり方 (%)



家庭生活又は地域活動よりも、仕事に専念する
家庭生活又は地域活動にも係わるが、あくまで仕事を優先させる
家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる
仕事にも係わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる
仕事よりも、家庭生活又は地域活動に専念する
わからない

図1 - 図3-3:内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査 2004年11月調査」より

男性にとっての男女共同参画

それぞれの価値観を認めるべき」と考える人が多いということでしょう。

仕事との関係において、家庭生活または町会やボランティアなどの地域活動をどのように位置づけるのが望ましいと考えているか、女性の場合、男性の場合についてそれぞれ尋ねた結果(図3-1、図3-2)と、自身の「現在の係わり方」について尋ねた結果(図3-3)を見てみます。

女性については、家庭生活と地域活動を両立させることが望ましい」と考

えている人が性別、年齢を問わず一番多くなっていますが、男性については「仕事優先が望ましい」「仕事に専念が望ましい」の順で、合わせて7割近くに上ります。「男性は(も)両立が望ましい」と答えた人の割合は、女性より男性の方がわずかながら高くなっています。現在の生活については、男性は「仕事に専念」「仕事を優先」が圧倒的に多く、女性は「家庭生活や地域活動を優先する」「人の割合が高く」「両立」は難しい現実がうかがわれます。

男女共同参画という点、女性のための施策と思われがちですが、昨年末に策定された第2次男女共同参画基本

計画には、「男女の職業生活と家庭・地域生活の両立の支援」が重点事項のひとつとして挙げられています。家庭生活、地域活動、趣味、ボランティアなどの時間を増やし、仕事とのバランスをとっていくことは、全ての年代の男女にとって、豊かな人生を送るうえでとても大切なことです。

男女共同参画社会基本法が制定されて7年になろうとしています。その実効性をより高めるためには、男女共同参画社会の意義やメリットを若い世代や男性にも広く知ってもらい、支持を広げていくことが欠かせません。今後の大きな課題です。

男女共同参画について 中央区の新成人に聞きました。

中央区では今年度、744人が20歳を迎え、成人の仲間入りをしました。彼らが生まれた1985年、1986年は、男女雇用機会均等法が制定・施行され、雇用における男女差別解消に向けた官民の取り組みが、第歩を踏み出した年に当たります。1月9日に行われた記念式典「新成人のつどい」を企画した6人の実行委員のみなさんにアンケートにご協力いただきました。

「男女共同参画」のイメージ

「男女共同参画」ということばを知ですか。イメージすること、感じることを教えてください」という質問に対しては、「知りません。男女が共に何かを企画する」「存じております。社会をともに築きあうとはどのようなことを指すのか、明確に判断することはできないと思っていますので、良い印象は受けません」「男女差別に対して敏感



河口彩乃さん

結婚・子育てには前向き

に女性を守っていくイメージ。ただ、女性に対して過保護で、『共同』というも男が弱い。以上が男性の回答。女性はまだまだ新しい感じ。女性にはかりスボットが当てられている。現実には難しい」「男女が分けへだてなく、いろんなことに取り組んでいくこと」「初めて聞きました。男性も女性も差別なく自由な意思で取り組める活動のことだと感じました」と答えています。



石田大典さん

「結婚して家庭をもちたいと思いませんか」「子どもをほしいと思いませんか」という質問には、全員がYESと答えています。理由は、子どもが好きだから」「家庭をもつことが夫婦互いへの尊重であり、国家と社会を築く第歩だと思つから」「私を育ててくれた両親が感じた子育ての喜びを自分自身でも体験したいから」「家族団らんにあることができるから」「私を産んでくれた人への恩返し。産まなかつたら後悔しそつ」。

共働き・子育て中は賛否両論

「共働き」については、「両親ともに働いていると子育てが疎かになつてしまつのではないか」「共働きは良い。しかし、子どもができたなら女性は家庭に従事するのが子どものために良いと思つ」



佐藤環さん

という男性の回答に対し、女性は素敵。父も母も働いていてどちらも役職に就いているのであなりた」「特別なイメージはありません。うちでは昔からそうだったので」「夫婦がお互いのやりたいことを尊重し合つてるといふイメージがあります」と答えています。

「家庭における女性と男性の役割分担を感じることはありませんか」「女性家事をすることがありますか」「男性は家庭では何もしない」から、「特



鮎沢亮さん

に感じません」までさまざま。「自分の家では多少ありますが、それは仕方がないことだと思ひます。どちらにもできることとできないことがあるので……」

「職場は男女平等か？」

「職場においては、平等でないところもあると思つ」「男女平等は良いこと。実力で昇給は当然」「学生のうちからむしる女でよかつたと感じるこの方が多かつたので、今はただただ不安です」という意見がある一方、「最近



芳村多満代さん

女性の活躍もめざましいので、差別は減少しているのでは？」「昔と比べると対等になっていると思ひます。男性に任せきりでいたことを女性がはつとつとこなす姿は素敵だと思ひます」など、男女差別が改善されているという認識も強くなつています。

女性の回答には期待と不安が感じられますが、景気の回復と働き手の減少を背景に、企業の女性活用の機運も高まっているといわれます。新成人の皆さんが描く将来像、理想とするライフスタイルは、それぞれ違うことと思ひますが、今後の活躍が楽しみみです。



志賀実さん

「面白いかどうか」が 基準の現在の若者たちの 男女共同参画意識

関東学院大学経済学部教授・中央区男女共同参画推進委員会委員

まこと

細谷 実

男女共同参画は当たり前

全般的に今の若者は、社会認識として男女共同参画を当たり前と捉えています。ただ、個別的に中身まで突っ込んで聞くと、そうは考えていない部分が出てきます。自分の家庭や将来をイメージすると、少し違ってくるのです。そのために、家庭の中で男女共同参画が進むカプセルと進まないカプセルがかなりはつきりと分かれるのではないのでしょうか。

今の若者の特徴は、自分のことと社会のことがそれほど密接につながってイメージされていないことです。かつての世代は、社会の問題は自分の問題であり、社会を変えれば自分が幸せにな

ると思っていたのですが、今、そういうイメージはもうたくありません。かつては多少なりとも社会的運動にリンクしているサークルが大学にはいっぱいあり、何かをすれば社会を動かせるという意識が広がっていましたが、今はそれがなくなっています。

男女の考え方は共通してきていて、昔ほど男女差はなくなってきました。しかし、女性の社会進出意欲が強くなっているわけではありません。女性の中でも階層分化が進んでいるのです。傾向として偏差値の高い四年制大学にはキャリア志向の学生がいますが、かつてなら短大に行っていたと思われる学生層が今は四年制大学にシフトして入学しています。しかし、意識はキャリア志向が弱いと言われた短大生の意識のままで四年制大学にきているのです。そうした学生たちは、それ程バリエーションという気持ちはありません。

そこそこ働いて、そこそこ稼ぐ

女性の中には、ずっと働き続けるという人もいますが、働き続けることの困難さもずいぶん伝わってきています。そこそこ働いて、そこそこ稼げるくらいの仕事があれば続けたいと思っている人が多いようです。また、専業主婦が一番の幸せとは思えないが、収入が高く、やさしい夫が見つければ専業主婦になってもいいという柔軟性があります。

今の若者は、面白いかどうかには

く敏感で、それしか基準がないようなところもあります。女性も楽しいことが基準ですから、しっかりと家庭を支えてくれるつまらない夫より、家庭の支えとしてはちょっと頼りなくても楽しい夫を選ぶと、少なくとも学生である今は言っています。

若い男性には、自分が大黒柱として頑張ろうという意識は心あるのですが、あまりリアルな意識ではありません。同時に男性には、自分が母親にやってもらった記憶が記憶チップの中にある、それを自覚せずに妻にも求めるというところになるようです。

父性の欠如が大きな問題

かつての男らしさみたいなものの中には、社会の運営や社会で生産をしていくときに役に立つ良いものもあるわけですが、そういうものが全部なくなっていくことは望ましくありません。男女ともに、人間の能力として社会的な運営力や生産力はきちんと身につけて育ててもらいたいと思います。

そのためには、早めにいろいろなプロジェクトを経験させることが重要です。小中学校のさまざまなイベントが、ある時期からほとんど切り捨てられました。みんなで協力し合って何かを行うことができない子どもたちが育っています。年齢を異にする近所の遊び友達集団が崩壊したことも因です。

子どもに対しては母性的な対応をしなければいけない場面と、父性的な

対応をしなければいけない場面があります。その場面はめまぐるしく変わりますから、それを臨機応変にきちんと使い分けが必要で、一人の親がどちらか一方だけの対応しかできないと、なかなか臨機応変にはなりません。

しかも、今は一人を合わせてもその一部しかできないカプセルが増えていきます。行政が少し手助けする、近所の人々が少し負担する、祖父や祖母が少し面倒を見る、といった形で全体としては周りに母性と父性が揃っている中で子どもを育てていけばいいのではないのでしょうか。

今の若者は、意外に「母性」を身につけていて、過保護すぎるほど面倒を見る場合があります。逆に一般に「父性」は欠如しています。それは、もつ上の世代から生じている現象で、いろんな組織でも部下を叱ることのできる能力を持った上司が少なくなりました。が、叱ることが重要だということをきちんと学習することは大切です。

母性や父性は頭で身につくものではありません。子どもたち集団で自分より小さい子どもの面倒を見る体験などがあって、はじめて身につくものです。少子化とはいえ、なんらかの子ども集団ができるような仕掛けを作る必要があります。ぜひ、中央区が率先的なモデルになって、地域と教育を結びつけていただきたいと思います。教育における近所コミュニティの力です。

築地・場内市場の仲卸業者で、 はまぐり・赤貝の販売員として活躍

株式会社濱長 松枝美津子 さん

Q 築地市場で仕事をされているそうですが、
どういった業務なのでしょう？

鮮魚の仲卸業をしている濱長という会社で働いています。卸会社やバイヤーと値段交渉をして、はまぐりや赤貝を仕入れ、築地場内の店舗でお客様に販売するのが私の仕事です。

お客様には毎日品物を提供しなければいけませんから、競り人とうまく交渉して品物が少なくても必ず仕入れができる状態にしています。ただ売るだけではなく、いかに良いものを安く仕入れることも重要です。そういうことができないと販売員は務まりません。品物が良く、品切れがないので、うちのはまぐりは評判が良いんですよ。

Q 築地での仕事は長いのですか？

私は18歳から13年間仲卸業に勤めて、結婚して退社し、20年くらい主婦をしていました。離婚をきっかけに42歳のときに再び築地で働き始めて16年濱長に入ってから14年になります。

Q はまぐりや赤貝を扱うのは
難しいのでしょうか？

はまぐりと二口で言いますが、国産だけでなく、中国、北朝鮮、韓国などいろいろなところから来ます。産地によつて、身の大きさ、肉質、味が違います。産地がはまぐりしないと、中身がどの程度入っているかわからないのです。だから、その品物の見分けもできなければいけませんし、中身の状態もわからなければいけないわけです。はまぐりだけでも奥が深いのです。最初は荷主に電話で産地を確認していましたが、今では目で産地や中身の大きさがわかるようになりました。

Q 貝むきの作業も
されているそうですね。

貝むきはあくまでもサービスです。手間賃をもらうという商売ではありません。週末が番売れるので、金曜日には八〇〇個ぐらい用意します。1時間に九〇〇個むくことができますから、それだけに集中すれば2時間ぐらいの作業です。はまぐりはだれでもむけるといってもありません。職人でもきれいにむけない人がいます。きれいにむかないとお寿司屋さんでは使えないのです。貝むきは力ではなくコツがあります。私は漁師町の生まれで、子どもの頃からあきりの貝むきを手伝っていたので慣れていました。でもはまぐりは回りの薄い皮を切つてはけませんから、貝の中では一番難しいのです。

Q 仕事のやりがいは何でしょうか？

自分で買い付けて、自分で自由に仕事ができることがやりがいにつながっています。お客様と直接対話ができ、仕事を楽しんでいるという感じがします。お客様から品物が良かったと言われると本当に嬉しいものです。赤貝とはまぐりに関しては、苦情も私が処理することになっています。どうしてそういう品物が出たのか、きちんと説明しない

Q お子さんを育てながら仕事を
続けてこられたわけですね。

と、お客様に納得してもらえません。今、現場では40人ぐらいが働いていますが、女性は2人だけです。女性も男性と同じように仕事をしなければいけませんから大変です。でも、濱長では男の人がよくしてくれて、仕事もカバーしてくれますから、あまり無理をしなくて仕事ができます。

朝3時に起きて、4時過ぎに築地場内に入ります。仕事が終わるのは午後3時です。仕事に復帰した頃、子どもが中学3年生と小学校2年生でした。朝、子どもたちの食事を作って出掛け、電話で子どもたちを起こしていました。学校から帰ってくる時間に家についてやりたかったので、この仕事を選んだのです。それは子どもたちの希望ではなく、私の希望でした。私が子どもたちのとき、両親が働いていて、学校から帰っても誰もいなくて本当に淋しい思いをしたからです。この仕事なら、子どもたちが学校から帰ってきたときに淋しい思いをしなくてすみます。

Q これからの夢は何でしょうか？

今、週一回、もやもやを習いに行っているのですが、それが一番の楽しみです。大きな大会で踊ると気分がいいものです。今年は本場の高知に行きたいと思っています。レース編み、文化刺繍などの手芸も好きで、1年中やっています。頼まれれば結婚式用のウェルカムボードも作ります。割と細かい作業が好きなのです。今年9月で定年ですが、はまぐりのことをわかる人がいないので、そのあと仕事を続けることになっています。これからは仕事をもっと楽しみたいと思っています。



「ブーケ21」区民スタッフ養成講座が終了しました



平成16、17年度において実施した「ブーケ21」区民スタッフ養成講座が2月2日に終了しました。

両年度とも全体学習を経たあと講座班・広報誌班に分かれて学習し、全部で15回の講座でした。

受講生の皆さんは、お仕事やご家庭のことでお忙しい中、長丁場の講座にもかかわらず熱心に参加され、昨年度に引き続き、今年度も大勢の方々が修了されました。

最終回には、班別の発表が行われ、「皆さんの総意がひとつになり、できあがった企画は意欲が感じられる素晴らしい作品でした。」との感想が寄せられました。

素晴らしい作品でした。発表も前向きな姿勢が伝わる立派なもので、今後の皆さんの活躍が期待されます」との館長らの講評がありました。

こうして揃った両年度の修了者の方々には、平成18年度からは、力を結集し、「事業協力スタッフ」として区の男女共同参画の拠点施設である女性センター「ブーケ21」が実施する男女共同参画講演会等の企画や実施、本誌「Bouquet」の企画や取材、執筆等に係わっていただきます。

ここでは、学習の成果として発表された皆さんの作品を紹介します。

ブーケ祭り参加団体
手作り

男女共同参画かるた【ま〜わ】



まず一歩 踏み出せば
そこに 貴女(あなた)の輝き



みんなで広げよう
女性の輪



胸張って 育児宣言
えらいぞうちのパパ!!



目を合わせ
優しい言葉で 話し合い



物造り、生活の中に
欠かすことなき
共同のバランス



やりましょう。
夫婦分担家事仕事



ユーモアと 笑顔で過ごす
マイライフ



世の中は、
男と女の認めあい



ランランと思いやり
助け合い男女参画



リラックス男女仲良く
ヨガで健康



留守居する夫思ほゆ旅の宿
楽しく友と膳囲みつつ



レシピ見て 料理に挑戦
若いパパ



老婆とか、漢字にあらわる
差別はうんざり
嫌・嫁・姑・姥・嫉妬



わがままで 片づけないで
女性の社会進出



「中央区男女共同参画
推進委員会委員」

平成18年1月末日で中央区男女共同参画推進委員会委員が2年の任期を満了しました。平成18年2月1日から20年1月末日までは、以下の方々に中央区の男女共同参画推進委員会委員として、「中央区男女共同参画行動計画」の進捗状況等についてご意見をいただくこととなります。

氏名	役職
佐藤洋子	ジャーナリスト
竹信三恵子	朝日新聞記者
青木真知子	中央母の会副会長
牛久芳枝	中央区民生児童委員協議会副会長
尾山三千代	中央区女性海外研修者の会会長
河本佳子	中央区女性ネットワーク会長
北村龍子	公募区民
櫻井一江	中央区婦人学級連絡会会計監査
篠原良子	中央区社会福祉協議会ボランティア
柴野京子	公募区民
高橋宏之	中央区連合中央地区協議会議長
戸井 誠	中央区青少年委員会副会長
深野元行	東京都労働相談情報センター所長
細谷 実	関東学院大学教授
深山房子	中央小学校校長
村田進益	公募区民
山野壽子	東京商工会議所中央支部評議員 会長 副会長 委員五十音順)

委員数は17名で、学識経験者、各種団体からの推薦委員、及び公募の区民3名にも参画いただいています。

「第2回中央区男女共同参画
推進委員会」の開催

2月21日(火)に平成17年度第2回中央区男女共同参画推進委員会が開催されました。委嘱状の交付のあと、平成18年度事業(案)の説明及び区各部署から提出された男女共同参画行動計画進捗状況調査の結果について話し合われました。

「中央区ブーケ祭り」
実行委員会の実施

6月23日(金)、24日(土)の2日間に行われ実施するブーケ祭りの第1回実行委員会が2月3日(金)に開催されました。参加団体は、これからブーケ祭りまでの間、実行委員会でのテーマの決定、役割分担、当日の手順等話し合いながら、日頃の学習の成果を多くの皆さんに楽しんで見ていただけるよう、各団体、協力し合い、昨年の反省点を踏まえてがんばっています。

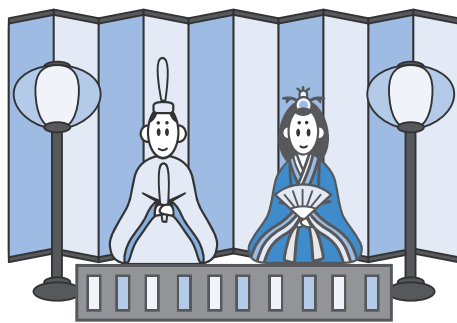
「ブーケ21ひなまつり
ロビーコンサート」の開催

中央区女性ネットワーク会員及び女性センターを利用する方々によるコンサートが開催されます。日頃から「女性センターって、どんなところ?」「女性じゃないと利用で

きないの?」と思っておられる方、どなたでも参加できますので、お昼のひと時をコース、楽器演奏、踊り、朗読等で、一緒に楽しんでください。他に「ひな祭りに関係のある作品の展示」も予定しています。年齢、性別を問わず、多くの方々のご来館を心からお待ちしています。

日時 3月3日(金) 12時~13時
場所 女性センター「ブーケ21」
1Fロビー

問合せ先
中央区女性ネットワーク
TEL(3555) 8088
女性センター内
総務部総務課女性施策推進係
TEL(5543) 0651



「女性センター開館日の拡大等
についての説明会」の開催

日頃、女性センター「ブーケ21」をご利用いただいている皆さんに、開館日の拡大や申込方法の一部変更等についての説明会を行います。多くの団体の参加をお待ちしています。

日時 平成18年3月1日(水)
18時30分~20時
場所 女性センター「ブーケ21」



編 集 後 記

中央区では、今年744名の新成人が誕生しました。今、若者は、社会の変化に伴う現状をどのように受け止めているのでしょうか。今号では若者にとって、「男女共同参画」とはどのように映り、どのように感じているものなのかを取り上げてみました。新成人へのインタビューでは、少しずつですが、お互いを認め合うという点では、男女共同参画社会への前進は感じられたものの、男性は仕事、女性は家庭を守るという性別役割意識は、根強く残っていることも感じました。いつの時代も若者は、「今の若者は...」と否定的な言い方がされてきました。しかしそれは、新しい社会に向かって若者が変化しているからではないでしょうか。善し悪しにかかわらず、変化はなかなか受け入れられないものです。若者も含めみんなが平等で平和な社会に向かって変わっていきたいものです。